

平塚航太

- ・3月11日、僕はいつもより早めに下校していました。家まで10mの所で、あの巨大地震が起きました。あの時は頭の中が真っ白で、どうしていいかわからず、家に戻るよう近くにいたおじいさんに言われて帰りました。
- ・家には祖母しかおらずどうしようかと思っていた時に、母が来ました。隣の寺に一時避難をしましたが、予想よりも高い津波が来るという情報が入り、山の上の神社に避難することにしました。山に登っている途中で黒い波が見えました。電柱や家をなぎ倒し、がれきが混じっている津波はとれも怖かったです。
- ・神社まで避難し、お年寄りや小さい子供優先で、毛布や食べ物が少しずつ配られました。この日は雪が降りとても寒く、夜は寝られませんでした。これが僕の震災当日の経験したことです。
- ・津波の被害で僕が住んでいる鮎川の街の姿は大きく変わってしまいました。震災当初、地域全体が暗い雰囲気でしたが、地域全体で助け合って生活し、世界各国や日本全国から食料やお金などを支援してもらったことで、地域みんなの顔や街の雰囲気が明るくなっていきました。
- ・中学生としてどうしたら地域に元気を与えることができるかを考え、侍ソーランを踊り続けています。様々なことを通して、街の復興に役立ちたいと思っています。